

1. これまでの審議内容

(1) 背景

○将来の予測として、少子高齢化の進展や、空き家の増加などが懸念される。
⇒少子高齢化対策として、若い人に麻生区に来てもらい、住み続けてもらいたい。そのためには、麻生区の魅力をPRしていくことが必要となる。

(2) 魅力発信の目的・対象

○子どもを含めた若い世代が、これからも麻生区に住み続けてほしいということから、「麻生区に住む子育て世代を対象」とし、区の魅力を伝えることが検討された。
⇒子育て世代のうち、親と子の両方に伝わりやすく、より効果的に発信できると考えられることなどから、まずは小学生を持つ子育て世代を中心に考えていくことが確認された。

(3) 審議テーマ

ふるさと麻生づくり ～愛着と誇りの醸成～

○区民に麻生区をもっと好きになってもらい、ふるさととしての魅力を感じてもらうことで、今後も住み続けてもらうことを目指す。特に新しく住みはじめた子育て世代が、麻生区をふるさとと感じてもらい、その子どもたちが大きくなって住み続けてもらうことを目指す。

2. 麻生区の魅力と発信方法の検討

(1) 麻生区の魅力の検討

○麻生区の魅力として、麻生区の「付加価値」といえるものは何かということが議論され、「自然と農」、「芸術のまち」、「市民活動が盛ん」であることを発信していくことが確認された。

(2) 魅力の発信方法の検討

○麻生区の魅力を、「知ってもらうきっかけをつくること」を目標とし、麻生区の魅力を、まずは広く「知る（知ってもらう）」「関心を持つ（持ってもらう）」という視点から検討することとした。

(3) 子育てフェスタにおけるヒアリング調査

○麻生区の魅力、魅力の発信方法、発信場所について、子育て世代の意見を把握するために、9月16日に開催された子育てフェスタにおいて、麻生区の魅力発信に関するヒアリング調査を行った。
(回答者数：女性106人 男性45人 合計151人)

問1. 麻生区の魅力は「自然と農」、「芸術」、「市民活動」であると感じるか。
⇒麻生区の魅力が「自然と農」「芸術のまち」「市民参加が盛ん」であると認識している人は多く、部会での検討内容と一般区民の認識にずれは無いと思われる。

問2. 麻生区の魅力を詳しく調べてもらうためには、どこで、どのように発信すれば届くと思うか。
＜発信方法＞

⇒新聞や地域情報誌など自宅に直接届くものに次いで、公共施設に置かれる冊子類や、保育園や学校等で配布されるチラシ等が情報として受け取りやすいとの回答が多かった。子育て世代にとっては、家庭に持ち込まれる情報の方が接しやすいことと、信用度が高い発信元が好まれることがわかった。

⇒ホームページやSNS等を使用した情報発信を選ぶ人もいたが、紙媒体での情報発信を選んだ人の方が多かった。情報を受け取りやすく、手元においていつでも見られるという利点が好まれていると思われる。

＜発信場所＞

⇒「区役所、市民館、図書館、こども文化センター」や「幼稚園、保育園、学校」から発信される情報の方が、「駅、スーパー、コンビニ」やイベント等で発信される情報よりも受け取りやすく、信用度が高い発信元から得られる情報の方が好まれることがわかった。

3. 提言に向けた検討

【提言1】子育て世代に向けた情報発信の強化

○子育て世代に、この町に住み続けたいと思ってもらうために、「麻生区の魅力」の情報発信を強化していくことが重要と考えます。単純な情報発信だけではなく、既存の冊子やチラシなどと結びつけ、魅力を知ってもらうためのきっかけをつくることを目標としての情報発信が必要であり、そのための組織づくりが必要と考えます。

【提言2】麻生区の魅力を発信するための冊子の作成

○ヒアリング調査を通じて、子育て世代にとっては、家庭に持ち込まれる情報の方が接しやすいことと、信用度が高い発信元が好まれることがわかりました。また、ホームページやSNS等を使用した情報発信が望ましいという人もいましたが、現時点では、紙媒体での情報発信を望む声の方が多かったことから、魅力を発信するための冊子の作成を提案します。

1) 冊子の概要

- ・小学生低学年の親を対象とし、親子で見たいもの、関心の持てるものを意識し、写真やイラストを多く用い、視覚的に印象に残るような冊子を検討。
- ・小学校で配ることができるものを意識して作成する。

2) 冊子のレイアウト案

○発信する冊子の内容については、先に示した概要を踏まえて下記のとおり検討している。

- B5サイズ観音開き8ページをボリュームとし、麻生区の3つの魅力をダイジェスト版(カラー)として伝えられる内容の冊子とすること。

- 現時点での各ページの構成の概要は以下の通り。

ページ	項目	提言内容への反映事項
1	表紙	・麻生区の魅力を知ってみたい、親子で参加したいと思ってもらえるキャッチーなタイトルとすること。 ・「都会にある田舎(田舎のある都会)」をイメージした表紙とすること。
2	麻生区の歴史	・麻生区の今昔のわかる写真を掲載すること。 ・麻生区の変わずに残っている部分についても掲載すること。 ・3つの魅力に沿った文言を入れ、詳細は既存資料に繋ぐ形式とすること。
3	麻生区の魅力	・本部会で検討してきた3つの魅力をわかりやすく紹介すること。
4~7	マップ	・見開き4ページ分の下部あるいは上部に麻生区の四季(1年)の魅力のわかる写真を掲載すること。 ・麻生区のマップを作成し、体験型・参加型のイベントや行事を魅力によって色分けし、マップにプロットすること。 ・詳細は各イベントのホームページ、既存資料に繋ぐ形式とすること。
8	既存媒体の紹介	・各種冊子等の情報、必要となるURL等をまとめること。

3) 発信場所(冊子等の置き場所・配布場所)について

○小学校を通じて子どもたちに配布する。家に帰ってから親子で見られるようにする。

○区役所、市民館・図書館、こども文化センターなどの公共施設で手にとってもらえるように、各施設に置いてもらう。

○区役所などの公共施設において、麻生区の魅力コーナー(ラックのようなもの)を設置する。そこでは、当冊子やすでに発行されている魅力に関する冊子やチラシ、資料も併せて置く。

4) その他の発信手法について

○冊子をホームページでも見られるようにする。合わせてSNSなども活用し、多くの区民に見てもらえるようにする。

○ヒアリング等により、冊子よりもホームページやSNS等を使用した情報発信の方が需要が高くなった場合には、電子上の情報発信に移行する。

5) 編集委員会準備会について

○魅力を発信するための冊子の編集にあたっては、区民の参加も含め、編集委員会準備会の設立を検討する。

【参考】本部会で検討された「麻生区の魅力」

自然と農、芸術・文化、市民活動が身近に感じられる麻生区

- ・麻生区は、都心に近いまちですが、田んぼや畑、里山などの緑が多く残り、芸術に関わる活動が盛ん、市民活動が盛んなまちです。

■都心近くの自然と農が残るまち

- ・麻生区は、都心に近いまちですが、自然が多くあり、田んぼや畑のような、なつかしい里の風景が残ります。いつでも地元産新鮮野菜を食べることができます。

■芸術・文化のまち

- ・麻生区は、芸術・文化のまちと言われており、芸術・文化活動が盛んなまちです。さまざまな芸術や文化活動が日々行われており、身近なところで本物の芸術や文化にふれられたり、体験して楽しむことができます。
- ・昭和音楽大学や日本映画大学があり、アーティストを目指す人たちが集まるまちです。また、子どもたちをはじめとした、地元の方を対象とした体験型のイベントなど、芸術・文化にふれあえる機会もあります。

■市民活動が盛んなまち

- ・麻生区では、他区に比べて市民活動団体が多く、ボランティア・市民活動が盛んなまちです。緑が多く残っていることや、芸術に関わる取組が盛んなのも、市民活動によるところが大きいと言えます。
- ・市民のまちづくり参加への意識が高いことから市民活動に参加する人が多く、区内各地で地域交流イベントなど、さまざまな活動が行われています。このようなこともあり、住みやすいまちと言えます。

■魅力を身近に感じ、参加できるまち

- ・麻生区は、安全で安心なまちであることに加え、さまざまな魅力が身近にあり、誰もが参加・体験できます。子どもたちの情操教育に良いなど、子育て世代にも魅力のあるまちです。